Powered by Vivliostyle

文体操舵録



『文体の舵を取れ』練習問題の手帳

ayhy

2

この本は『文体の舵をとれ ル=グウィンの小説教室』(2021)の課題を一個人が実施したものをまとめた制作物です。版元とは一切の関係がありません。

この作品はフィクションです。作中に登場する人物、団体、場所、 出来事はすべて架空のものであり、実在する人物、場所、出来事と は一切の関係がありません。

問三3b 傍観型の語り手35	問一3b 三人称限定① 31	問一3a 三人称限定② 26	視点と語りの声325	問三2b 傍観型の語り手21	一2b 三人称限定	問一2a 三人称限定② 12	と語りの声2	問一19	問一1	序字	自分の文のひびき 8		目次	
			問三6b 傍観型の語り手77	問一6b 三人称限定①73	問一6a 三人称限定② 8	視点と語りの声6	問三5b 傍観型の語り手	問一5b 三人称限定①9	問一5a 三人称限定②5	視点と語りの声5 53	問三4b 傍観型の語り手9	問一4b 三人称限定①	問一4a 三人称限定② 40	視点と語りの声4 3

問三9b 傍観型の語り手119	問一9b 三人称限定①115	問一9a 三人称限定②110	視点と語りの声9	問三8b 傍観型の語り手105	問一8b 三人称限定①101	問一8a 三人称限定② 9	視点と語りの声8 95	問三7b 傍観型の語り手1	問一7b 三人称限定①87	問一7a 三人称限定②82	視点と語りの声781
問三12b 傍観型の語り手・・・・・・・161	問一12b 三人称限定①·157	問一12a 三人称限定②·152	視点と語りの声12 151	問三11b 傍観型の語り手147	問一11b 三人称限定①·	問一11a 三人称限定②·138	視点と語りの声11137	問三10b 傍観型の語り手	問一10b 三人称限定①·129	問一10a 三人称限定②·124	視点と語りの声10123

視点と語りの声 17 221	視点と語りの声16 207	問三15b 傍観型の語り手・・・・・・・203	問一15b 三人称限定①·199	問一15a 三人称限定②·194	視点と語りの声15 193	問三14b 傍観型の語り手・・・・・・・189	問一14b 三人称限定①·•••• 185	問一14a 三人称限定②·	視点と語りの声14179	問三13b 傍観型の語り手175	問一13b 三人称限定①·171	問一13a 三人称限定②·166	視点と語りの声13 165
												視点と語りの声2023	視点と語りの声19249

視点と語りの声18-----

235

合評会でご一緒した皆様に心より御礼申し上げます。

自分の文のひびき

•

ことをセットとした合評会の設計もあります [1] 。そ解説のように作者が予め作品と合わせて解説を出すいますが、ワークショップの本によっては美術展示の書かれた文に意図を説明するのは野暮と言われて

の場合、本文が始まる前に書き手が意図を説明する紙

ス、読み手への答え合わせになるでしょうか。になります。本文の後に置く場合は合評へのレスポンの意図が達成されたかという観点で突っ込んだ合評面を設ければ、参加者は予断をもって文章を読み、そ

です。探りで何も考える余裕がなかったのが正直なところ探りで何も考える余裕がなかったのが正直なところー章の第一問、第二問とやっている間はとにかく手

Ξ"The anti-racist writing workshop the anti-racist writing workshop" (F. R. Chavez, 2021) ↔ ω

[2]キャンバス地と木造の骨組みを使った旧大陸の幌馬車以上

金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。

じに

問一 1

なかったって思い知らされる。胃が重い。重すぎて、立ち去るころになって、あの子に大したことができ

にことを書く気はない。ただ何もかもが失敗した訳助かないくらいだ。遠ざかっているはずなのに、塔にむっている。どう考えても、何かを書くのに向いて、さくならない。だから目を逸らすように下を向いて、さくならない。だから目を逸らすように下を向いて、さやないんだけど。取り消し線を沢山引きながら、ないとか「いい思い出になった」って話せる台本を作ったいにぶつけた日記と、市長の手元のレコードがあるたいにぶつけた日記と、市長の手元のレコードがあるたいにぶつけた日記と、市長の手元のレコードがあるかぎりは、本当のことはすぐわかるけど。起きなかったいにぶつけた日記と、市長の手元のレコードがあるかががりは、本当のことはすぐわかるけど。起きなかっただ何もかもが失敗した訳した訳は、本当のよりに表示があるがあるが、またが、表示というによりに表示されている。 しているのかも。地に詰まった黒革の、苛立ちを毎日みたいにぶつけた日記と、市長の手元のレコードがあるかがでいるのかも。地に詰まった黒革の、苛立ちを毎日からになった。

日記だって、 起きたこと全部を書いている

ゎ

けでもないだろう?

話じゃなかったとも思うんだ。火トカゲのマーサが始 めて熱気球を打ち上げたときのことは。 気持ち。でも、多分、視点を変えれば、そんなに悪い もっと上手くやれたはずだった、というのは正直な

る。

間二 1

上り

坂のままである。

龍紗から水が抜け落ちては、海面から躍り出る。 全身は 濡らし伝いながら海面へと戻った。跳ねた白蛟を空気 は支えない。 う弧になる。 を蹴れば、 水面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床板 蛟の子は飛び上がり、沈みこんでは床板を蹴り、 の繋ぎ橋はまだ、 跳ねとんだ下肢は陽ざしの下、 龍紗が吐き出した水は、こんどは橋桁を 床板は白蛟のを強かに打ち付けたが 全身は届かなかった。上体の 膚をぺたりと取り囲み、 床板へ向か

閉

珊瑚の浮き上がるような赤とも黄とも緑ともつかない。 側から、 空気の中で育つ藻と珊瑚が隣島の殻を覆い、 濃淡を認めるだろう。 空気に招かれて浮き上がる。がらんどうの島を見上げ ては新しい色を得る。 隣島への道を渡る。その内側は、まだ空洞のはずであ 痛みによろめき、 じた龍紗が下肢を保護していた。それでも白蛟の子は けていく紺青でもなく、 中身は白蛟たちの島に吐き出されて、 死んだ珊瑚も同然に色あせていた。 坂を登り切って見下ろすなら、白と灰でない まろびながらも肢を整えては橋の上、 ひとたびうつろになれば、 水面近くの白藍でも、 水の纏う色ではない。 混ざりあっ いま空気の 深みの溶 白蛟が見 生きた

れば、

文体操舵記録

ち

はずである。 隣島に中身が戻り、

白蛟の、

たことのない色と形で手招きするように揺れていた。

橋が下り坂になるのはずっと先の

ましてや子ひとりの重さでは沈

むまい。

白蛟は意を決すると、肢を揺らして殻のふ

視点と語りの声 2

▼ 問一 2a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から一瞬にないませい。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。とは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続くを手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 2a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

での期間限定だけど。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 2 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるのを

イクルキャプチャ®は、

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

カ

١

を蹴りつけ続け

背中を椅子越しにリズミ

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい◆

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 2a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。 整理がかなり大変だと思いました。 ◆ 問三 2a 傍観型の語り手

◆ 問三 2a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

できして見ぶさせておきます。ことは立て重している。少し時間がかかりますが、という前置きして告げる外ントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外ントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外に感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外に感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズがいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら に女の子は立ち上がり、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

国

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。

ない。

問 四四 2 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 銀の半円リングが回っている。 しかしそこは既にアミ

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのと、事例としてカタログには載っているが、それ

ります」「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

唐木田が振り返ると、

機材の跡の染みから目線を上

無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの上ていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 2 b

三人称限定①

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

ることは、悠にはまだ信じられない。

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

挙句両親もスタッフも手を上げて、

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

やだと泣き叫び、

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 2b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば地を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

ま

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 考える。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 2b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 サ ·イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を卜施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になてきない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を出ていく。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

20

問三 2b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 今子供

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ 威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面 の制服を着た保安員、 つまり私に アミューズ

n

<

私は息を吐き出した。

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる そちらの大掛か 同シフトの

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

この職場はあまり心臓 によ

エントランスは殺風景で、 問四 2 b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の それは

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

銀の半円リングが回っている。

国

だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

う

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

せ

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 3

◆ 問一 3 a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対終と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対をだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと地んでしまう。列の先頭に足がする。 は、あんなの無理、絶対終と大して、現界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切る音がずっと右から下から左から一一そして膝に足る音がずっと右から下から左から一半をして膝に足る音がずっと右から下から左から一半を上げて、

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 3 a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう『背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

٤

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

80

問二 3 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転4~48の範囲で回転している。 № 5 メートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるのを

イクルキャプチャ®は、

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

27

カ

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい◆

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 3a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。 を理がかなり大変だと思いました。 ◆ 問三 3a 傍観型の語り手

◆ 問三 3a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー つまり私に ズ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

ない。

問 四四 3 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと

み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

く球の中央を通る。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描

や

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのよの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

•

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

いた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

◆ 問一 3b 三人称限定①

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

ることは、悠にはまだ信じられない。

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

やだと泣き叫び、

挙句両親もスタッフも手を上げて、

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

_

にマットレスの感触。 大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なる音がずっと右から下から左から―――そして膝に足のを取りていたいたがなった。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?していられるの?とも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 3b 三人称限定②

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

ŧ

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で与ンポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 3b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。RPM

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に8個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏

内

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

> うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

整理がかなり大変だと思いました。

34

· 問三 3b 傍観型の語り手

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の下供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一番をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

一緒に歩いていた。
に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とに女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓

によ

35

<

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

、彼らの顔が強張る。の制服を着た保安員、

アミューズ

n

ì

エントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ◆ 問四 3b 潜入型の語り手

銀の半円リングが回っている。ユーズメントパークの園内である。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

国、飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体をに送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれなだ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

ったかもしれない。いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込ったかもしれない。

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しがも、 保安員が指導されているのは、そのような事なので、多少変なポーメラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーメラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーメラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーメラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーメラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーメラでスキャンデータを補正するので、多少変なポースを開いている。

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

> 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

37

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 4

問 一 4a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 4a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう『背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも ―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

して向こう側を見ようとする。 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

٤

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 4 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン

カ

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 4a 傍観型の語り手と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 4a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らして告げるメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の外と見に彼らを追い出すような権限はない。

「いてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問 四 . 4a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ しかし、 彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ャナを怖がる子供、 ニュアルでは、 うまく飛べそうにない大人、そう 別室扱いの客が出た時のためにペ

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ントランスは殺風景で、 広告用の園内写真もない。サイクルキャプ 撤去された機材の跡が黒 アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ それこそが、 当時の面影は 唐木田がこの

ります」 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

機材の跡の染みから目線を上

やつ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田が振り返ると、 化粧でも、

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 エントラ 応答

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

•

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 4 b

三人称限定①

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

ることは、悠にはまだ信じられない。

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

挙句両親もスタッフも手を上げて、

やだと泣き叫び、

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそバリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

_

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続いま手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものり抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 4b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばを引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうとで描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、朔に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、朔に戻った。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

ŧ

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 考える。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ® 問二 4b 遠隔型の語り手 のアーチが回っている。

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サ ·イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな った異音もなく、いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

っている。

先週交換したばかりのアーチ部は、

▼ 問三 4b 傍観型の語り手

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシートを蹴りつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

こも 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて丁供 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら座時 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って心え りな旧式スキャナの電源を入れる。 コシフトのいシ ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのいシ

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

一緒に歩いていた。

一緒に歩いていた。

一緒に歩いていた。反射的に支給のレシーバーに手が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターのように潰れて

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

49

<

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、

アミューズ

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う

エントランスは殺風景で、 問四 4b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の それは

だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

れた線を隠しきれてはいない。

場所を選んだ理由だった。

み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 エントラ

応答

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 5

▼ 問一 5a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対を大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、から大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続限と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、も

問一 5 a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 啓が横に一歩踏み出して列からず

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

> 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

٤

54

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二 5a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転8~48の範囲で回転している。 かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ―― 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては―― 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

・川上の昼長は引後)、たっこの温道の圧にず、然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人8個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当カメラ映像から三次元形状を再構成する。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

55

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい◆

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

◆ 問三 5a 傍観型の語り手と思います。未知の情報を読者に提示することを主目的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだい

● 問三 5a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー ズ

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

カ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

ない。

問 四四 5 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのよりでに運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故◆

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

て歩いていく。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 5 b

三人称限定①

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

絶対

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

U

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

にマットレスの感触。 て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた で、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのにマットレスの感触。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続いま手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?していられるの?とも、内側にずらりと並んだレンズ――あんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像のもり抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 5b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないほうがいいことを、啓は経験からきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からで描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。常を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうときの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からで描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

ま

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 5b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サ ·イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイクルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

18.、ます。未用り青根を売者に最高することを上目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目

問三 5b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ― 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛か

ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 同シフトの

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

文体操舵記録 63

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

<

私は息を吐き出した。

この職場はあまり心臓によ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。

つまり私に アミューズ

٤

う

エントランスは殺風景で、 問四 5b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。 アトラクションの一部と言えなくもない。

国 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

> 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 6

◆ 問一 6a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるとさいた。着える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、さいまで、発行して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切らがずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

文体操舵記録

67

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 6a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

カ臣とつけてブヤンポけると、半円のフレームがたして向こう側を見ようとする。 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。の音中が減る。装置が遮られずに見える。遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。あためとバリアの中心にいるだろうか?

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

٤

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二 6a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持される。像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるの

を

> クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 80 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

っている。

カ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

のだ。

未知の情報を読者に提示することを主目

◆ 問三 6a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。

と思います。

◆ 問三 6a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー つまり私に ズ

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四 . 6 a 潜入型の語り手

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは、

別室扱いの客が出た時のためにペ

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのおの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ店木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

の事例が念頭にありました。

回転体に人間を接触させ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 6 b

三人称限定①

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。

73 文体操舵記録

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものり抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 6b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばいるいた。と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このでも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、靱に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、刺に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、刺に戻った。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

ŧ

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 考える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 6b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サ ·イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 一定

附帯設備の可動トランポリンは、

大縄跳びに近い。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏

内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

文体操舵記録

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。のルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト

っている。 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

整理がかなり大変だと思いました。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

問三 6b 傍観型の語り手

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ― 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 今子供

> りな旧式スキャナの電源を入れる。 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

この職場はあまり心臓によ

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

<

私は息を吐き出した。

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。

つまり私に アミューズ

文体操舵記録

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う

エントランスは殺風景で、 問四 6b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

国

飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 7

問一 7 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 7a 三人称限定②

していられるの?

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

カモをつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

問二 7 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるの

イクルキャプチャ®は、

を

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 7a 傍観型の語り手と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだい

● 問三 7a 傍観型の語り手

んとした泣き声の発生源に、

意を決して近づいた。こ

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ返行いてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

か

カ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問 四四 7 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ熊を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

れた線を隠しきれてはいない。

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「のぎのぎのである。 当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの 当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの は実際に運用される前の状態であった。当時の面影は ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

いた。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 7b

三人称限定①

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

ることは、悠にはまだ信じられない。

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

っってでによった。 告りに寸ぎたしてければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

知っていた。

仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

して向こう側を見ようとする。

問一 7b 三人称限定②

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からをの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このでも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転では「球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、親裏からで語をです。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 装置が遮られずに見える。

考える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 問二 7b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サ ·イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏

内

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

文体操舵記録 89

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンクルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぷん回ってる機材が何か、とい

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ― 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 今子供

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ 威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面 の制服を着た保安員、 つまり私に アミューズ

n

<

私は息を吐き出した。

保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た そちらの大掛か 同シフトの

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

この職場はあまり心臓によ

文体操舵記録 91

エントランスは殺風景で、 問四 7b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 エントラ

応答

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、

あと数年はもつれ

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 8

問一 8 a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一 8 a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?がリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はります。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

80

問二 8 a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転4~48の範囲で回転している。 № 5 メートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるの

イクルキャプチャ®は、

を

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

カ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

→ た星音もなく しまのとこえ 安気して いた

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 8a 傍観型の語り手と思います。未知の情報を読者に提示することを主目的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 8a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー ズ

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問 四四 8 a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ 彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ャナを怖がる子供、 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ ニュアルでは 保安員が指導されているのは、そのような事 うまく飛べそうにない大人、そう 別室扱いの客が出た時のためにペ

れた線を隠しきれてはいない。

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ントランスは殺風景で、 広告用の園内写真もない。サイクルキャプ 撤去された機材の跡が黒 アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります」 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 たしか 宮垣 エントラ 応答

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

列の先では、

男がトランポリンに向かって小走りに

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にこのす例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一8b

三人称限定①

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

て歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

U

101 文体操舵記録

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 8b 三人称限定②

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず 靴裏からで

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

ま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で与ンポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 8b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。RPM

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

103 文体操舵記録

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ

先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあっている。低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になびできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

った異音もなく、いまのところ安定していた。

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

整理がかなり大変だと思いました。

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

問三 8b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 今子供

ないドアに向かって親子連れを先導した。

同シフトの

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

近づいてくる強面 の制服を着た保安員、 つまり私に

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 彼らの顔が強張る。 アミューズ

n

<

緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。

と、安堵した親が子供に声をかけ、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 子供は泣き腫らし

が伸びるが、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と そちらの大掛か

この職場はあまり心臓によ 文体操舵記録 105

٤

う ヤ

エントランスは殺風景で、 間 四 . 8b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 ナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

られる。保安員が指導されているのは、そのような事

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声9

◆ 問一 9a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。とは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続いた手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけった。

٤

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

◆ 問一9a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に 向 か

サイクル キャプチャ® 問二 9a 遠隔型の語り手 のアーチが回っている。

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

地球

大縄跳びに近い。 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 年齢制限を

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

超えたばかりの子供たちも、

何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 怖がってジャン

カ

ŀ

を蹴りつけ

シ続け

背中を椅子越しにリズミ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

◆ 問三 9a 傍観型の語り手整理がかなり大変だと思いました。 整理がかなり大変だと思いました。

◆ 問三 9a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー 日の ズ

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問 四 . 9a

潜入型の語り手

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

唐木田が振り返ると、

機材の跡の染みから目線を上

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは、

別室扱いの客が出た時のためにペ

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのおの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。化粧でも、やつげて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた めぐる訴訟は続いている。 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

いた。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、 しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。メトロノーム

問一 9b

三人称限定①

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、 男がトランポリンに向かって小走りに 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 っちへ行きたかった。 挙句両親もスタッフも手を上げて 弟の手前でさえなければ。

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものりした。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 9b 三人称限定②

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず 靴裏からで

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがして向こう側を見ようとする。

ま

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目 ぼすんと

> サイクル キャプチャ® 問二 9b 遠隔型の語り手 のアーチが回っている。

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

サ イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 内部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、 図式としては 一定

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 、生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

問三 9b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の一トを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミカルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が遅かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなどめようとしている親が浮かべているのと同じもをなどの終われている。

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、それないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かった。同シフトの

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

この職場はあまり心臓によったこの職場はあまり心臓によく体操記

<

私は息を吐き出した。

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

、彼らの顔が強張る。の制服を着た保安員、

アミューズ

エントランスは殺風景で、 問四 9b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の それは

に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

う

ヤ

ナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

れた線を隠しきれてはいない。

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 10

問一 10a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 10a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高啓は駆けだしていた。

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

٤

٤

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 10a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるのを

イクルキャプチャ®は、

大縄跳びに近い。 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 《再構成圏内》 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

、サイ

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 プできない子供たち、 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

カ

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、

とい

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、 うのが問一段階では取りにくい と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目 子供の視点を通して伝えるのは情報の (問二でわかった)と

日ぶり十六件目。 問三 10a 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 傍観型の語り

丰

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 ŀ を蹴りつけ シ続け 背中を椅子越しにリズミ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

> をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー 日の ズ

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

一緒に歩いていた。

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問四 10a

潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

や

く球の中央を通る。

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ しかし、 彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ャナを怖がる子供、 保安員が指導されているのは、そのような事 うまく飛べそうにない大人、そう 別室扱いの客が出た時のためにペ

いので、 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ントランスは殺風景で、 広告用の園内写真もない。サイクルキャプ 撤去された機材の跡が黒 アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは

チ

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 たしか 宮垣 エントラ 応答

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

いた。 唐木田がこの場で有効な証

列の先では、

男がトランポリンに向かって小走りに

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、 しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メトロノーム

問一 10b

三人称限定①

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

て歩いていく。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 挙句両親もスタッフも手を上げて、

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

っちへ行きたかった。

弟の手前でさえなければ。

て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟のも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足して、弟の背丈ならだいたて、弟の背丈ならだいた

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものりがら見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 10b 三人称限定②

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず 靴裏からで

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

ŧ

考える。らゃんとドリアの中心こいるごろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で与ンポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 10b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。ペー5×メートルに設置された軸受けで水平に保持され、儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んた人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になて、は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはかない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはかない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはかない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはのない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンはのない。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

132

問三 10b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。この世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行に叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が遅かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

が伸びるが、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

<

133 文体操舵記録

れ

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

、彼らの顔が強張る。

アミューズ

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

緒に歩いていた。

問四 10b 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

国 に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

う

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

れた線を隠しきれてはいない。

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

せ

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 11

◆ 問一 11a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

を大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対を大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にりぶムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、かだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、乗りには、あんなの無理、絶対を大して、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切りがある。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

にマットレスの感触。

٤

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 11a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はバリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓は

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

٤

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

80

って、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 11a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがある。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

サ

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、 図式としては そ 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 何事もない顔をして回転 年齢制限を 、サイ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 安全性に懸念を示す親や、 怖がってジャン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

カ

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、 うのが問一段階では取りにくい と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目 子供の視点を通して伝えるのは情報の (問二でわかった)と 丰

日ぶり十六件目。 問三 11a 傍観型の語り

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 ŀ を蹴りつけ シ続け 背中を椅子越しにリズミ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

> をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 子供は泣き腫らし アミュー 日の ズ

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛 同シフトの

ないドアに向かって親子連れを先導した。

ようににっこりと笑うと、

私は部屋の端にある目立た

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問四 . 11a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

ら、アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当りに運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣の割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー、当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

いた。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させ

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 11b 三人称限定①

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

けるのを見た。

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものりがら見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 11b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、単裏からで語を受えないし、リングも一本、それも半分だけだ。を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きがオイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きがすると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、別に戻った。

ま

助走をつけてジャンプすると、して向こう側を見ようとする。

半円のフレームが

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 考える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目

> 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクル キャプチャ©のアーチが回っている。 遠隔型の語 [り手

差し向

サ イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にないできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ― 背中を椅子越しにリズミカ 今子供

近づいてくる強面 の制服を着た保安員、 つまり私に

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 彼らの顔が強張る。 アミューズ

n

<

私は息を吐き出した。

保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

りな旧式スキャナの電源を入れる。 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

この職場はあまり心臓によ 文体操舵記録

エントランスは

殺風景で、

問四 11b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

く球の中央を通る。

しかし時折、

勢いあまった子供達

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 それは

に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

国

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、

う

ヤ

ナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチずんだ枠となって残っている。アトラクションではなずんだ枠となって残っている。アトラクションではな

れた線を隠しきれてはいない。「情木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

場所を選んだ理由だった。

まごサイクレキャプチャの相発でと、事故の責任を といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 といったがが部屋を外しているときの出来事だったの はていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの といったがが部屋を外しているときの出来事だった。 無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ 無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をみ割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答

♦

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

せ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 12

◆ 問一 12a 三人称限定①

いく。
刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

٤

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 12a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう「背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助りを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助りを一回転して球をつくる。4円のフェースが影響をある。2つすると、4円のフェースが影響を表現している。2つすると、4円のフェースが影響を表現している。2つすると、4円のフェースが影響を表現している。2つずると、4円のフェースが影響を表現している。2つずると、4円のフェースが影響を表現している。2000年によりますると、4円のフェースが影響を表現している。2000年によりまする。2000年

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 12a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

カ

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい (問二でわかった)と

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、 と思います。 未知の情報を読者に提示することを主目 子供の視点を通して伝えるのは情報の

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

のだ。

日ぶり十六件目。 問三 12a 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 傍観型の語り

丰

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 ١ を蹴りつけ シ続け 背中を椅子越しにリズミ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

> をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 予定もたたないだろう。 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ アミュー つまり私に 日の ズ

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし そちらの大掛 同シフトの

か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れて くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

一緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問四 . 12a

エントランスは殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。

しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

られる。

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当りに運用される前の状態であった。当時の面影は

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

•

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

回転体に人間を接触させ

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

いた。

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという◆ 問一 12b 三人称限定①

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

ることは、悠にはまだ信じられない。

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそがどと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、

U

Z

唸りに重なって、

周期的に繰り返す。

メトロノーム

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。

。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像のもり抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 12b 三人称限定②

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず 靴裏からで

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

ま

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まやまするフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で上シンポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 12b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転84~8の範囲で回転している。w 5×1トルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30〜40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に8個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

に速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になり、キャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

問三 12b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ――背中を椅子越しにリズミカ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か 同シフトの

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 子供は泣き腫らし

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

この職場はあまり心臓によ 文体操舵記録

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

<

私は息を吐き出した。

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。

つまり私に アミューズ

問四 12b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

エントランスは

殺風景で、

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

国 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界 ヤ 時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 ナを怖がる子供、

に送る。

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

う

うまく飛べそうにない大人、そ

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。 の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

せ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 13

問一 13a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 けるのを見た。 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

٤

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 13a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう『背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は即気を一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。との背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

って、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 13a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

部へ跳びこむことを要求する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 大縄跳びに近い。 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 《再構成圏内》 図式としては 定

> クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

文体操舵記録 167

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、

跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

カ

١

を蹴りつけ

シ続け

背中を椅子越しにリズミ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

→ すり 音をする ひきのところ 写気してもす

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

うのが問一段階では取りにくい

(問二でわかった)と

のだ。

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 13a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ返行いてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 問四 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 銀の半円リングが回っている。 しかしそこは既にアミ

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのよの導入事例としてカタログには載っているが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた めぐる訴訟は続いている。 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

駆けていった。 いく。 刺さる。 列の先では、 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

て歩いていく。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 男がトランポリンに向かって小走りに 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

ることは、悠にはまだ信じられない。

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 っちへ行きたかった。 でも弟はもう駆けだしていた。 挙句両親もスタッフも手を上げて、 弟の手前でさえなければ。 床面の矢印が点滅

Z

唸りに重なって、

周期的に繰り返す。

メトロノーム

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 13b

三人称限定①

即禁止されるものです。

現実の3Dスキャン技術はか

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

回転体に人間を接触させ

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 13b 三人称限

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず (定2

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレームが して向こう側を見ようとする。

ŧ

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。◆ 問二 13b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

サイクルキャプチャ©は、対象が動いてくるのを毎分回転84~8の範囲で回転している。w 5×1トルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ

先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあっている。 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をプをきない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を

った異音もなく、いまのところ安定していた。

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目

整理がかなり大変だと思いました。

傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ― 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 今子供

> りな旧式スキャナの電源を入れる。 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

この職場はあまり心臓によ

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

<

私は息を吐き出した。

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。

つまり私に アミューズ

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う

エントランスは殺風景で、 問四 13b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思議の それは

国

飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 エントラ

応答

いた。

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、

あと数年はもつれ

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 14

◆ 問一 14a 三人称限定①

いく。

刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

٤

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 14a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助力を一回転して球をつくる。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

٤

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

80

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 14a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ©

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 のアーチが回っている。 対象が動いてくるのを 地球

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 一定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

カ

١

を蹴りつけ

シ続け

背中を椅子越しにリズミ

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい◆

うのが問一段階では取りにくい

(問二でわかった)と

のだ。

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実

◆ 問三 14a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ威圧感を覚えたのか

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

ない。

問四 14a 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

アで保安員を配置するよう記されている。(マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペ

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そう

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのおの導入事例としてカタログには載っているが、それ

唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

「当日の様子を話していただけますか?」れた線を隠しきれてはいない。

げて緑のジャケットの女性が頷いた。

化粧でも、

やつ

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの出ていた。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

い た。 **◆**

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

回転体に人間を接触させ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 14b

三人称限定①

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

ることは、悠にはまだ信じられない。

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、 つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 14b 三人称限 (定2

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず 靴裏からで

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレームが して向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と 装置が遮られずに見える。

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か での期間限定だけど。 いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目 ぼすんと

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

.転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

サイクル キャプチャ® 問二 14b 遠隔型の語 のアーチが回っている。 [り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

サ イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 、生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

整理がかなり大変だと思いました。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

問三 14b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こんとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。これに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えれに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、いつかの飛行の世の終わりのようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもをなだめようとしている親が浮かべているのと同じもかといる。

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛かった。同シフトの

ないドアに向かって親子連れを先導した。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

一緒に歩いていた。

一緒に歩いていた。

無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前が伸びるが、救護センターへのおりにした。慌ててそちらにするというによって

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

<

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

、彼らの顔が強張る。の制服を着た保安員、

アミューズ

エントランスは 問四 14b 殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

う

ャナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事

٤

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 15

◆ 問一 15a 三人称限定①

いく。

「刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突きたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんというしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対終と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対でも弟はもう駆けだしていた。席面の矢印が点滅して先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいる音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続いた手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけり

٤

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、も

問一 15a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

> 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

啓は駆けだしていた。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

٤

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

80

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 15a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるのを

イクルキャプチャ®は、

大縄跳びに近い。 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 《再構成圏内》 図式としては 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 っている。 プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 安全性に懸念を示す親や、 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を

カ

か

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい◆

うのが問一段階では取りにくい

(問二でわかった)と

のだ。

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目

◆ 問三 15a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

保安員に彼らを追い出すような権限はない。予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ威圧感を覚えたのか

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

196

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ない。

問四 . 15a 潜入型の語り手

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのよりでに運用される前の状態であった。当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

いた。

列の先では、

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

唸りに重なって、 しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メトロノーム

問一 15b

三人称限定①

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 男がトランポリンに向かって小走りに

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 挙句両親もスタッフも手を上げて、

っちへ行きたかった。

弟の手前でさえなければ。

でも弟はもう駆けだしていた。

床面の矢印が点滅

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

にマットレスの感触。

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、ものりがら見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 15b 三人称限定②

知っていた。 ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず 靴裏からで

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

ŧ

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。

装置が遮られずに見える。

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 啓は駆けだしていた。 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目 ぼすんと

> 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 サイクル キャプチャ® 問二 15b 遠隔型の語 のアーチが回っている。 じり手

差し向

毎分回転8~8の範囲で回転している。 № 5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、 サ イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

○人間を食用、毎上よるよう投資されており、緊急停まする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 といばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転がよればかりの子供たちも、何事もない顔をして回転り、 一体設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイト施設においてはほぼ必須の設備と

っている。 っている。 のでいる。 できない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンは少ない。 は少ない。安全性に懸念を示す親や、際急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

202

問三 15b 傍観型の語 じり手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 今子供

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 つまり私に アミューズ

n

と、安堵した親が子供に声をかけ、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 子供は泣き腫らし

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

りな旧式スキャナの電源を入れる。 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。 この職場はあまり心臓 によ

<

問四 15b 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。 アトラクションの一部と言えなくもない。 それは

に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

国

飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに

虹をくぐった先の魔法の国、

霧を抜けた先の不思議の

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

う

ヤ

ナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 高橋という名の元従業員は、 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

せ

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 16

問一 16a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

けるのを見た。

通り抜けた。

る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し ひゅんと風を切 絶対

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 16a 三人称限定②

していられるの?

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 啓が横に一歩踏み出して列からず

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

> 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば して向こう側を見ようとする。

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

٤

٤

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 16a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 № 5 メートルに設置された軸受けで水平に保持されかい5 メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 対象が動いてくるのを

サ

イクルキャプチャ®は、

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、 図式としては そ 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 プできない子供たち、 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

カ

١

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、 うのが問一段階では取りにくい と思います。 いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ 未知の情報を読者に提示することを主目 子供の視点を通して伝えるのは情報の (問二でわかった)と

日ぶり十六件目。 問三 16a 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 傍観型の語り

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 を蹴りつけ シ続け 背中を椅子越しにリズミ 意を決して近づいた。こ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

> をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー 日の ズ

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問四 I 16a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのお所を選んだ理由だった。

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた めぐる訴訟は続いている。 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

列の先では、

男がトランポリンに向かって小走りに

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

唸りに重なって、 しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 問一 16b 周期的に繰り返す。 三人称限定① メトロノーム

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 っちへ行きたかった。 でも弟はもう駆けだしていた。 挙句両親もスタッフも手を上げて、 弟の手前でさえなければ。 床面の矢印が点滅

て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟のも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から一手を駆けるときのいて、

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続を手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 16b 三人称限定②

知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばありまっ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうとであー― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きを変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。でも―― 啓が見たことのある本物のジャイロスコープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。背中に感じる圧力に啓は振り返って、親裏からで描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。背中に感じる圧力に啓は振り返って、難裏からで書の姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からを変えないに、組入ので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

バリアみたいだ。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 啓は駆けだしていた。 考える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 装置が遮られずに見える。

での期間限定だけど。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目 ぼすんと

> サイクル キャプチャ® 問二 16b 遠隔型の語り手 のアーチが回っている。

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

毎分回転8~8の範囲で回転している。 № 5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、 サ イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 を撮像する。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

カレチャプトャラへ後が入げ見子重しら、F鈴訓录を下施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ⑥へ飛び込む親子連れも、年齢制限を

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

問三 16b 傍観型の語り手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも 今子供 りな旧式スキャナの電源を入れる。 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か 同シフトの て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

と、安堵した親が子供に声をかけ、

子供は泣き腫らし

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 緒に歩いていた。 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。 この職場はあまり心臓 によ

<

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。

つまり私に アミューズ

文体操舵記録 217

エントランスは 問四 16b 殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

国 に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 踏み込

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。

アで保安員を配置するよう記されている。

当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチいので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。

場所を選んだ理由だった。

をはなびっこので、ので、のほで見、こしで引きなり、これでは、まな割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致しているときの出来事だった。まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証めぐる訴訟は続いているが、事故が起きた時の第一応答み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して

♦

いた。

の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触さ余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

せ

219 文体操舵記録

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 17

問一 17a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。

みんなそうしてるみたいに。

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 17a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば

きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。 整は駆けだしていた。 実験の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

٤

٤

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 17a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向 イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 《再構成圏内》 図式としては 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

っている。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 プできない子供たち、 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい◆

うのが問一段階では取りにくい

(問二でわかった)と

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目

◆ 問三 17a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 ようににっこりと笑うと、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー 日の ズ

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

カ

ŀ

を蹴りつけ

シ続け

背中を椅子越しにリズミ

りな旧式スキャナの電源を入れる。

側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて

女の子が倒れていた。

反射的に支給のレシーバーに手

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

問四 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ しかしそこは既にアミ

その 銀の半円リングが回っている。 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは、

別室扱いの客が出た時のためにペ

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておは実際に運用される前の状態であった。当時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事をの記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのといるが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

いた。 唐木田がこの場で有効な証

列の先では、

男がトランポリンに向かって小走りに

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

唸りに重なって、 しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メトロノーム

問一 17b

三人称限定①

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 挙句両親もスタッフも手を上げて、

っちへ行きたかった。 でも弟はもう駆けだしていた。 弟の手前でさえなければ。 床面の矢印が点滅

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、

問一 17b 三人称限

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず (定2

ŧ

して向こう側を見ようとする。 助走をつけてジャンプすると、

半円のフレームが

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

遮るシャツの背中が減る。 レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 啓は駆けだしていた。 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と 装置が遮られずに見える。

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目 ぼすんと

での期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

サイクル キャプチャ® 遠隔型の語 のアーチが回っている。 [り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

サ ·イクルキャプチャ©は、 対象が動いてくるのを

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

大縄跳びに近い。

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に

カメラ映像から三次元形状を再構成する。 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

文体操舵記録 229

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 、生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、

跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

問三 17b 傍観型の語り手

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

でなだめようとしている親が浮かべているのと同じもとなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのようとしている親が浮かべているのと同じもとなどめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供に目が合った両親の申し訳なさそが気に関すると思いました。

少し時間がかかりますが、という前置きして告げると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛かりな旧式スキャナの電源を入れる。
無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。

一緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

<

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

、彼らの顔が強張る。の制服を着た保安員、

アミューズ

231 文体操舵記録

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

う

エントランスは殺風景で、 問四 17b 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 銀の半円リングが回っている。

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

出口ドアから覗くカラフ

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の それは

だ大人の子供のスキャンし、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

に送る。

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

232

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな エントランスは殺風景で、 撤去された機材の跡が黒

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

> 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

せ

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 18

問一 18a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

٤

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 18a 三人称限定②

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

カ告をつけてブヤンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。 知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ば多の姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はバリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓は

啓は駆けだしていた。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

80

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 18a 遠隔型の語り手

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され サ イクルキャプチャ®は、 対象が動いてくるのを

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、 《再構成圏内》 図式としては そ 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

っている。

プできない子供たち、

は少ない。

安全性に懸念を示す親や、

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 何事もない顔をして回転 年齢制限を 、サイ

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 跳びこむ動きが困難な利用者を 怖がってジャン カ

ŀ

を蹴りつけ

シ続け

背中を椅子越しにリズミ

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

うのが問一段階では取りにくい

(問二でわかった)と

のだ。

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだいう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

◆ 問三 18a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

エントランスは殺風景で、 問 四四 . 18a 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ない。

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 銀の半円リングが回っている。 しかしそこは既にアミ

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ャナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

アで保安員を配置するよう記されている。

られる。

保安員が指導されているのは、そのような事

ります」

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのお所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

は一致して 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわれは避けた 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに年はもつれ いく。

刺さる。

たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、祭りプして責き資本ない言化に、またなの無罪、糸文

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。

み

唸りに重なって、

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

周期的に繰り返す。

メトロノーム

問一 18b

三人称限定①

即禁止されるものです。

現実の3Dスキャン技術はか

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

回転体に人間を接触させ

L

241 文体操舵記録

にマットレスの感触。 大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なる 音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足のを駆けるときのい五歩、カの背丈ならだいたて、東京は

けるのを見た。

る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 18b 三人称限定②

ま

助走をつけてジャンプすると、して向こう側を見ようとする。

半円のフレームが

バリアみたいだ。 考える。 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? 自分の番が来たときのことを、 啓は

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

装置が遮られずに見える。

遮るシャツの背中が減る。 じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感 啓は駆けだしていた。 .転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、 が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向か いう柔らかい音がした。 着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 姉だ。 着地を失敗した姉と目 ぼすんと

での期間限定だけど。

サイクル キャプチャ® 問二 18b 遠隔型の語 のアーチが回っている。 [り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

差し向

毎分回転8~8の範囲で回転している。 № 5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、 サ イクルキャプチャ©は、 内部へ跳びこむことを要求する。図式としては 対象が動いてくるのを

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 大縄跳びに近い。 附帯設備の可動トランポリンは、 一定

を撮像する。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏 内

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

文体操舵記録 243

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン

止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ

> 的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の と思います。未知の情報を読者に提示することを主目 うのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

・ 問三 18b 傍観型の語り手

一日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の一下を蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミカルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思えたかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように立き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように立き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのように立き叫ぶ子供は、いつかの飛行の世の終わりのようには、またいというには、またいというには、またいというには、またいというには、またいというには、またいというには、またいというには、またいというには、またいというには、またいというには、またいというには、いったいというには、いったいといった。

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、それないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かった。同シフトの

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

一緒に歩いていた。

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

<

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

、彼らの顔が強張る。の制服を着た保安員、

アミューズ

エントランスは 問四 18b 殺風景で、 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の それは

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか

銀の半円リングが回っている。

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

ヤ

ナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ

٤

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります れた線を隠しきれてはいない。 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

場所を選んだ理由だった。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ エントラ 応答

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

視点と語りの声 19

問一 19a 三人称限定①

いく。 刺さる。 唸りに重なって、 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって 周期的に繰り返す。メトロノームみ

駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 一転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 絶対

けるのを見た。 る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続 通り抜けた。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 無事に。 みんなそうしてるみたいに。

٤

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 19a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部れると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがまして向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で啓は駆けだしていた。

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

٤

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 顔をそらした姉に 向 か

啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 問二 19a 遠隔型の語り手

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

毎分回転84~8の範囲で回転している。 w P5 M というがいります。 かいり メートルに設置された軸受けで水平に保持され 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

サ

イクルキャプチャ®は、

対象が動いてくるのを

大縄跳びに近い。 アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、 部へ跳びこむことを要求する。 附帯設備の可動トランポリンは、そ 図式としては 定

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 |個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、

80

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、 っている。 プできない子供たち、 は少ない。 く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 安全性に懸念を示す親や、 跳びこむ動きが困難な利用者を 何事もない顔をして回転 怖がってジャン 年齢制限を 、サイ

カ

った異音もなく、 先週交換したばかりのアーチ部は、 いまのところ安定していた。 事前に苦情のあ

うのが問一段階では取りにくい ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい (問二でわかった)と

いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだ

のだ。

整理がかなり大変だと思いました。 的とした場合、 と思います。 未知の情報を読者に提示することを主目 子供の視点を通して伝えるのは情報の

日ぶり十六件目。 問三 19a 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 傍観型の語り

意を決して近づいた。こ

の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、 その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。 んとした泣き声の発生源に、 ŀ を蹴りつけ シ続け 背中を椅子越しにリズミ 何が気に障ったのか、 いつかの飛行

> をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 着陸時 今子供

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 近づいてくる強 面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 子供は泣き腫らし アミュー つまり私に 日の ズ

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 そちらの大掛 同シフトの

ようににっこりと笑うと、

私は部屋の端にある目立た

か

りな旧式スキャナの電源を入れる。

女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 に女の子は立ち上がり、 一緒に来たと思しき男の子と

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

エントランスは殺風景で、 問四 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。 しかしそこは既にアミ

その 回る動きも、

か

銀の半円リングが回っている。 すでに入場料を払っているのだ

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

踏み込

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

ニュアルでは、

別室扱いの客が出た時のためにペ

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝しておは実際に運用される前の状態であった。当時の面影は当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事をの記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのといるが、それ

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ店木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。髙橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証

いた。

即禁止されるものです。 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 の事例が念頭にありました。 なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。 現実の3Dスキャン技術はか 回転体に人間を接触させ

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

唸りに重なって、 しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メトロノーム

問一 19b

三人称限定①

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

駆けていった。 ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、 男がトランポリンに向かって小走りに 沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

て歩いていく。 ることは、悠にはまだ信じられない。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ やだと泣き叫び、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 っちへ行きたかった。 でも弟はもう駆けだしていた。 挙句両親もスタッフも手を上げて、 弟の手前でさえなければ。 床面の矢印が点滅

にマットレスの感触。 大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいたて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なる 音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足のを駆けるときのい五歩、カの背丈ならだいたて、東京は

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 19b 三人称限定②

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず 靴裏からで

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

して向こう側を見ようとする。

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

啓は駆けだしていた。 遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で与ンポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 19b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転8~8の範囲で回転している。ペー5×メートルに設置された軸受けで水平に保持され、儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

附帯設備の可動トランポリンは、

大縄跳びに近い。

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~90枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

57 女体撮影記録

を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ®へ飛び込む親子連れも、年齢制限を

く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停

整理がかなり大変だと思いました。

っている。 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になができない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

258

問三 19b 傍観型の語 じり手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ― 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 今子供

りな旧式スキャナの電源を入れる。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、 ないドアに向かって親子連れを先導した。 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 子供は泣き腫らし そちらの大掛か 同シフトの

が伸びるが、 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

私は息を吐き出した。 この職場はあまり心臓 によ

n

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ

<

メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の

威圧感を覚えたのか、

近づいてくる強面

の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。

つまり私に アミューズ

問四 19b 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 出口ドアから覗くカラフ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

国 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の

に送る。 だ大人の子供のスキャンし、 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん その動き自体が、日常生活では目にかかれな その現し身をデータ世界

> ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

う

ヤ

ナを怖がる子供、

うまく飛べそうにない大人、そ

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

٤

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

アで保安員を配置するよう記されている。 いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな それこそが、 唐木田がこの 当時の面影は

エントランスは殺風景で、

撤去された機材の跡が黒

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

れた線を隠しきれてはいない。

場所を選んだ理由だった。

み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 エントラ

応答

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 めぐる訴訟は続いている。 といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ

いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 20

◆ 問一 20a 三人称限定①

いく。

「刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんというしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にいるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、の話がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――そして膝に足る音がずっと右から下から左から――

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。とは口を引き結び、振り向いて円リングが回り続い。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続いた手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

٤

しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

▼ 問一 20a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。

でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?して向こう側を見ようとする。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球はかりを一回転しないほうがいいことを、啓は経験からきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

での期間限定だけど。

٤

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

◆ 問二 20a 遠隔型の語り手て、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。

サイクル

キャプチャ®

のアーチが回っている。

地球

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転4~48の範囲で回転している。像の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ――内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正

を撮像する。

サイクルキャプチャ®は

《再構成圏内》

っている。

アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること上ボタンの

カ

ŀ

を蹴りつけ

シ続け

背中を椅子越しにリズミ

った異音もなく、いまのところ安定していた。 先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

ギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

のだ。

近づいてくる強

面

の制服を着た保安員、

つまり私に

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)と

◆ 問三 20a 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行んとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じもに目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、今子供たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

威圧感を覚えたのか、 て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる と、安堵した親が子供に声をかけ、 予定もたたないだろう。 ないドアに向かって親子連れを先導した。 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 メントパークに入れずに門前払いされては今日一 ようににっこりと笑うと、 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 彼らの顔が強張る。 とはいえ、私のような雇われ 私は部屋の端にある目立た 子供は泣き腫らし 同シフトの アミュー 日の ズ

か

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、

そちらの大掛

りな旧式スキャナの電源を入れる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手

一緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

に女の子は立ち上がり、

一緒に来たと思しき男の子と

ない。

問 四

潜入型の語り手

I 20a

エントランスは殺風景で、

出口ドアから覗くカラフ しかしそこは既にアミ

ューズメントパークの園内である。

ルな電飾のような愛嬌はない。

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、

か

すでに入場料を払っているのだ

や

国 虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、 ら、アトラクションの一部と言えなくもない。 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 来園者の期待を掻き立てる。 それは

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

文体操舵記録 267

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

ります」

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにペいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのお所を選んだ理由だった。

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラ「当日の様子を話していただけますか?」

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれめぐる訴訟は続いている。唐木田がこの場で有効な証まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

列の先では、

男がトランポリンに向かって小走りに

い た。 **◆**

の事例が念頭にありました。

余談ですが、

書いているときは過去の回転ドア事故

て歩いていく。

回転体に人間を接触させ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

問一 20b

三人称限定①

Z

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそやだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた にマットレスの感触。 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの

けるのを見た。 膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 通り抜けた。 内側にずらりと並んだレンズ―― あんなの、 無事に。みんなそうしてるみたいに。

問一 20b 三人称限定②

知っていた。 襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。 と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 も力強さがわかる。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。 でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで 仕方ないので列から動かずに、首を伸ば 啓が横に一歩踏み出して列からず

助走をつけてジャンプすると、 半円のフレームが して向こう側を見ようとする。

ŧ

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。啓は駆けだしていた。

・ランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんと

での期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。地球◆ 問二 20b 遠隔型の語り手

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。R PM

内部へ跳びこむことを要求する。図式としては

こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

附帯設備の可動トランポリンは、

大縄跳びに近い。

↑ 「月川)馬恵度カイラは一回云ぶの「のて)へはの加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに路ぶ近々カノ毘の亘畳と性性を消気精御し、一気

に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で∞~⑽枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

271 文体操舵記録

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

に速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事になり、 クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、年齢制限を する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンプできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を プできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者を 低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

と思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報の

272

問三 20b 傍観型の語 じり手

機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時 ルに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ ― 背中を椅子越しにリズミカ 意を決して近づいた。こ 今子供

ないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛か 同シフトの

をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わ 威圧感を覚えたのか、 メントパークに入れずに門前払いされては今日一日の 近づいてくる強面 の制服を着た保安員、 彼らの顔が強張る。 つまり私に アミューズ

n

<

私は息を吐き出した。

この職場はあまり心臓によ

と、安堵した親が子供に声をかけ、 保安員に彼らを追い出すような権限はない。 少し時間がかかりますが、という前置きして告げる 子供は泣き腫らし

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させる

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立た

が伸びるが、 りな旧式スキャナの電源を入れる。 に女の子は立ち上がり、 女の子が倒れていた。 側を振り返ると、 高橋さんに目配せをしてドアを開け、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って 救護センターへのホットラインを繋ぐ前 マットレスにカエルのように潰れて 反射的に支給のレシーバーに手 一緒に来たと思しき男の子と

٤

う

エントランスは殺風景で、 問四 20b 潜入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

国 だ大人の子供のスキャンし、 虹をくぐった先の魔法の国、 並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに その現し身をデータ世界 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む その動き自体が、日常生活では目にかかれな VRアミューズメント施設では実際に体を

に送る。

ったかもしれない。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。

メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取 ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描 み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ 態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 ャナを怖がる子供、 うまく飛べそうにない大人、そ

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 ニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 唐木田がこの 当時の面影は

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 ります 「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお 唐木田が振り返ると、 機材の跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

れた線を隠しきれてはいない。

場所を選んだ理由だった。

者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 無理もない。 高橋という名の元従業員は、 エントラ

応答

かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 言を引き出すことができなければ、 めぐる訴訟は続いている。 唐木田がこの場で有効な証 あと数年はもつれ

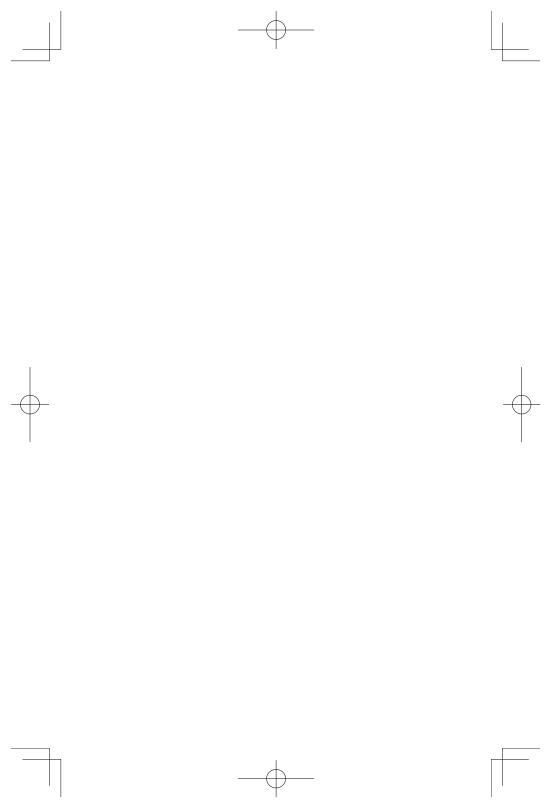
いた。

の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。



文体操舵録

2022/07/13 初版発行

著者 あやふや

Telecocoon, Ltd. 発行

https://telecocoon.netlify.com

組版

vivliostyle-jppb https://github.com/ayhy/vivliostyle-

jppb

電子版なので乱丁落丁の代わりに誤字脱字がありま す。ご容赦ください。